

第8分科会 特別支援教育の授業づくり

指導・助言 埼玉純真短期大学 准教授 原 口 政 明

実践提案① 支援学級 秩父市立秩父第一小学校 新 井 久 美 子

実践提案② 支援学級 さいたま市立大成小学校 佐 俣 リ カ 子

1 特別支援教育の授業づくりを取り巻く状況

近年、特別支援教育の対象となる児童生徒は増えつつある。小中学級の通常の学級においても、特別な支援を必要とする児童生徒が在籍しており、全ての教科等の授業において、特別支援教育を推進していくことが必要である。また、特別支援学級における、支援プランに基づく障害種別の指導の工夫はもちろんのこと、通常の学級においても必要となる。学校全体として、全学級で進める特別支援教育の授業づくりが期待されている。

2 提案実践①について

(1) よかった点、特筆すべき点等

- ・支援プランによるPDCAに基づく子どもの特性にあわせた授業づくりをしている。
- ・児童の実態及び個人目標をしっかりと示し、授業においては「1時間の流れ」「個人のめあて」「ワークシートの活用」がわかりやすく視覚提示して展開している。

(2) 改善点、アドバイス

- ・授業づくりの工夫により、子どもの主体的な活動がスモールステップで実現しており、さらに、より背伸びすれば届く課題達成への工夫を継続し、自己肯定感の向上に繋げたい。

(3) 実践者への激励メッセージ

- ・生徒指導や教育相談の主任として学校をリードしてきた経験を有する教員が、特別支援教育推進のリーダーとなり学校全体の特別支援教育の授業づくりを牽引している。さらに、子どもや保護者からの信頼の厚い地域のリーダーとしての先生が、地域の特別支援教育の推進に尽力していただき、子ども達の笑顔を増やしていくものと想像される。

3 提案実践②について

(1) よかった点、特筆すべき点等

- ・「身体に関する様々な学習」を、年間を通して、図工、国語、体育などの教科別の学習においても計画的・総合的に進めている。
- ・自立活動においては、タブレットなどのICT機器を効果的に活用し、楽しみながら学習し、課題を達成している。

(2) 改善点、アドバイス

- ・ICT機器の活用で成果を上げているが、子どもの機器操作や直接経験への結びつけなどの工夫により、さらに効果的に実践を継続的に進めていただきたい。

(3) 実践者への激励メッセージ

- ・長期的な計画のもと、計画的に粘り強く、特別支援教育の授業づくりに取り組んでいく様子が伝わってきた。子どもは成長しておりますので、さらに体を動かすのが大好きな子を育てていていただきたい。